

# コロナ禍で広告減少、イベント中止となるなか コストコントロールで利益を確保 年間ではライツ事業の押し上げで業績予想達成へ

売上高

**643億**  
3千2百万円

(前年同期比 -10.1%)

営業利益

**20億**  
9百万円

(前年同期比 +40.5%)

親会社株主に帰属する  
四半期純利益

**10億**  
5千6百万円

(前年同期比 +173.5%)

1株当たり中間配当金

**15円**

(年間配当 40円)

総資産

**1,226億**  
3千6百万円

純資産  
(自己資本比率)

**868億**  
8千万円

(68.5%)

1株当たり配当金

グループの成長と企業価値の増大、長期的な経営基盤の充実に向けた内部留保とのバランスを考慮し、安定的な配当の継続を重視しつつ、業績に応じた利益還元を努めます。  
1株当たりの配当金は年額20円を下限とした安定配当に加えて、業績に連動した配当として、連結ベースで配当性向30%を目標にしています。  
(2020年度通期配当予想) 1株当たり25円(年間配当は1株当たり40円)

2020年度通期 業績予想

売上高 …… 1,354億6千万円  
(前年同期比-6.7%)

営業利益 …… 32億4千万円  
(前年同期比-36.8%)

## 地上波放送事業

■売上高 **466億8千8百万円**(前年同期比-15.3%)

■営業利益 **10億4千4百万円**(前年同期比-24.8%)

### ■放送事業(地上波放送、番組販売)

放送事業収入(売上高)の合計は16.4%減の335億3百万円となりました。番組提供の sponsor から得られるタイム収入のうち、通常放送(レギュラー部門)が、系列局を通じた全国放送(ネット部門)、及びテレビ東京単独の首都圏放送(ローカル部門)の両方において、番組編成を一部改めた4月クール改編での値下げ圧力の影響を受けました。これに加え、特別番組(特番)部門では「世界卓球」等が下期に延期、週末の売上の軸となるゴルフ中継で大会の中止が相次いだことで、前年に比べて減収となりました。スポット広告はコロナ感染の広がりの影響がさらに大きく表れ、出稿量が大きく落ち込みました。地方放送局などへの番組販売収入は、コロナ禍による番組供給の停滞などにより減収となりました。

### ■ライツ事業(アニメ、コンテンツ、イベントなど)

ライツ事業収入(売上高)の合計は12.5%減の131億8千5百万円となりました。アニメ部門は、配信が堅調に推移するとともに、中国をはじめとした海外で「BORUTO」のSNSゲームが大きく売上を伸ばしましたが、その他のゲームが振るいませんでした。また、劇場版アニメ映画のタイトル数も前年同期比で減少となりました。放送番組をインターネット配信の課金プラットフォームなどに販売することが柱であるコンテンツ部門では、「孤独のグルメ Season 8」「ミリオンジョー」等のビデオグラムが堅調に推移した一方、新型コロナ拡大に伴い、ドラマの制作中断や延期、中止が相次ぎ、国内プラットフォーム向けの販売が低迷しました。映画は「バラサイト 半地下の家族」のヒットにより、前年比で増収となりました。イベント部門も計画を相次いで中止し、減収となりました。

## コミュニケーション事業

■売上高 **23億7千6百万円**(前年同期比+15.4%)

■営業利益 **1億2千6百万円**(前年同期比+10.4%)

コミュニケーション事業では、キャラクターEC事業が好調に推移し、特にスヌーピー地域限定商品やキッチン家電等のオリジナル商品の売上が増加しました。また、動画広告売上も前年同期を上回り推移しました。

## 放送周辺事業

■売上高 **209億6千1百万円**(前年同期比-0.5%)

■営業利益 **19億1千4百万円**(前年同期比+42.1%)

音楽出版を手掛けるテレビ東京ミュージックは、新型コロナウイルスの影響を受けることなく、国内外からの印税収入が順調に推移しました。配信関連の楽曲使用料も売上に貢献しました。アニメ専門チャンネル「AT-X」を手掛けるエー・ティー・エックスでは、加入者数の減少傾向が続いたほか、放送外事業である広告関連売上やライツ売上も想定に届きませんでした。また、番組制作関連の会社は、番組収録等の再開に伴い、徐々に売上が回復に向かいましたが、5月までの落ち込みをカバーしきれず、売上高は大幅に減少しました。

### ■テレビ通販事業

好調だったのはテレビ通販事業を手掛けるテレビ東京ダイレクトで、コロナ禍の巣ごもり需要に応え、除湿剤「調湿木炭出雲屋炭」をはじめとする生活雑貨や、お取り寄せグルメ「虎ノ門市場」が大きく売上を伸ばしました。加えて、オリジナルゴルフクラブ「DANGAN7シリーズ」も堅調な売上を維持しました。

## BS放送事業

■売上高 **75億3千6百万円**(前年同期比-8.2%)

■営業利益 **8億9千万円**(前年同期比+62.4%)

### ■放送事業(BS放送)

放送収入(売上高)のうちタイム収入は、1社提供のミニ枠の終了や広告会社買切番組の値下げ、さらにコロナに伴いゴルフトーナメントやプロ野球、卓球などのスポーツイベントの開催が中止となったことで、多大な影響を受けました。通販番組で多少のカバーはできたものの、前年同期を下回る結果となりました。スポット収入に関しては、一般スポンサーはコロナ禍の影響で市況全体は低調だったものの、通販スポンサーは除菌スプレー等の商材で出稿を伸ばすことができたため、前年同期を上回りました。

### ■ライツ事業(コンテンツ、イベント他)

ライツ部門では、コロナ禍の影響により、イベントの開催設定およびドラマの放送スケジュールが大きく変更することとなり、収益全体に影響を及ぼしました。